

フロリダ州ネーブルズ(アメリカ) 01:17pm

高齢者用介護住宅で暮らす祖母の元を訪れた父。部屋の中でストレッチしている姿を捉えた



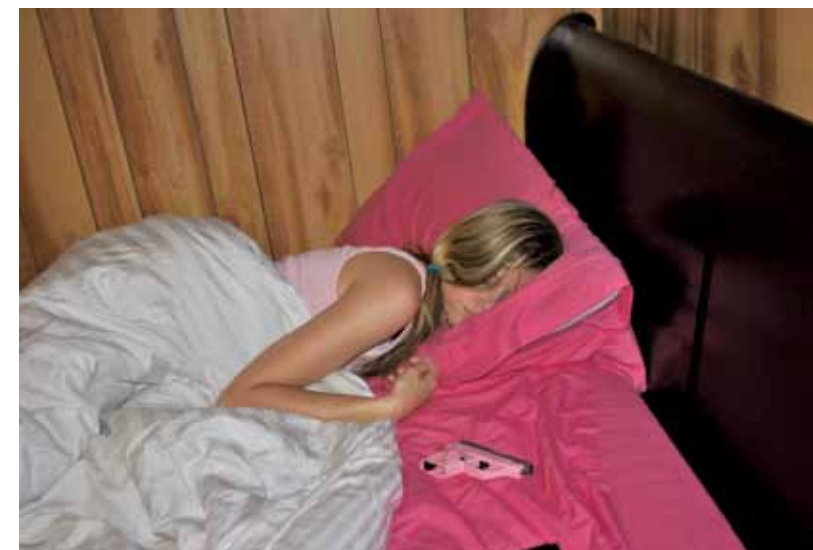
リオデジャネイロ(ブラジル) 05:45pm

リオデジャネイロの地下鉄の風景。4月からすべての列車で女性専用車両が設けられることになった。痴漢の心配はないが、ぎゅうぎゅう詰めだ



アムステルダム(オランダ) 05:15pm

自宅キッチンの汚れ物。食器を洗うのはいつも、1週間に1度だけしている



アラバマ州サリジェント(アメリカ) 09:00am

23歳の女性のセルフポートレート。最近引っ越した新しい家で一人暮らしをしている。身を守るために、いつも銃を傍らに置いて眠ることにしている

オスロ(ノルウェー) 08:00am

13カ月の息子ジャンを抱き上げ、オムツを替える姿をセルフポートレートで撮影した



COURTESY ADAY.ORG: (CLOCKWISE FROM TOP RIGHT) MEGAN SIPSEY, CHRIS MALUSZYNSKI, ROGGIE, ANA CAROLINA FERNANDES, CASEY KELBAUGH

その日は多くの人々にとって、ごくありふれた一日だったかもしれない。いつもどおり家事をこなし、満員電車で揺られ、家族と言葉を交わす……。今年、世界中の人々の「5月15日」を写真に記録し、ネット上に集めようというプロジェクト「ア・デイ・オブ」が行われた。日常の風景を参加者がそれぞれの視点でカメラに収め、言語や文化を超えて共有しようと、スウェーデンの非営利財団「エクスペリメンツ・オブ・ヒューマンカインド」が主催した。集まった写真は165カ国から約10万枚。ある人は生活感がふれるキッチンを写し、ある人はその日生まれた赤ちゃんを抱いてほほ笑む。それらは決してニュースを飾ることのない、生き生きとした日常の記録だ。すべての写真は今月サイト上で公開され、公的機関のナショナル・アーカイブス・オブ・スウェーデンにも所蔵される。厳選された作品は写真集に収められ、11月に刊行される予定だ。写真集の前文で、ヴァージングループ創業者でプロジェクトの顧問を務めたリチャード・ブランドソンは語る。「ある一日の歴史的な記録であると同時に、人々の生活の驚くべき多様さを示す壮大な物語でもある」

A DAY IN THE WORLD

写真が切り取る世界中の日常

Picture Power



ダカール(セネガル) 03:45pm
近所の風景。労働者たちが休憩を取っている



ダッカ(バングラデシュ) 02:26pm
バングラデシュの首都ダッカにあるスラム街の1こま。中流層の中でも貧しい暮らしの風景だ

セビリア(スペイン) 07:45pm
4月から心臓の病気で入院している父を見舞う母。集中治療室に移され、呼吸が困難な状態が続いている



福島県飯館村(日本) 12:00pm
原発事故の起きた福島第一原発から30キロ以上離れた農村地域で除染作業の合間に作業着を着替える人々



ベンガジ(リビア) 10:30am
リビアの軍事パレードで、パラシュート隊が舞い降りる様子をじっと見守るリビア軍兵士たち

アンカラ(トルコ) 07:30pm
道で見掛けた上品な装いの見知らぬ女性。急に大粒の雨が降りだし、屋根の下に入ろうと小走りになっている

COURTESY ADAY.ORG:
(CLOCKWISE FROM TOP LEFT)
SYLVAIN CHERKAoui, K.M. ASAD,
CARLOS CAZALIS, REY ESPINUEVA,
ESAM AL-FETORI, TUBA KORHAN,
PETER BLAKELY

Picture Power

ラウニオン州サンフェルナンド(フィリピン) 05:15pm
赤ちゃんの泣き声が、母親の耳に心地よく響く。たったいま生まれたばかりのわが子を胸に抱いて満ち足りたほほ笑みを向ける

